

令和7年度 西都市立穂北小学校 学校評価

4段階評価 4 できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

《学校の教育目標 心豊かで、知性にすぐれ、たくましい体をもった実践力ある子どもの育成》

重点目標	重点目標達成の手段	具体的目標や取組	結果の分析・考察及び改善策		評価		学校関係者評価コメント
			職員	関係者	職員	関係者	
よく考え、進んで学ぶ子ども	① 日常授業の改善・充実 ② 学習技能・学習習慣の確実な定着 ③ 読書活動の充実 ④ 「さいと学」 「キャリア教育」の取組の充実	1 教師が話し過ぎず、児童が主体的に考えることができるように工夫する。	○子どもが自ら学びとる授業の割合を単元全体の中で多く位置付けていくようにする。 ○ICTの活用が教師の教具としてだけでなく、子どもにとって文房具となるよう、スキルを高めていく。 ○タブレットへの入力だけでなく、ノートに「書くこと」も指導を徹底し、書く力を身に付けさせていく。 ○週に2回程度設定している習熟の時間（スタディサポート 通称：SS）を充実させ、基礎基本の徹底を図る。 ○学びの確認（2～3月）の時間を充実させ、学年末の総復習を徹底しておこなう。 ○「めざせ学習名人チェック」を活用しながら、基本的な学習習慣を身に付けさせる。 ○図書室の積極的な利用など、学校で本を読む機会を多く設け、家庭とも連携しながら読書の推進を図っていく。 ○これまでの取組を継続しつつ、総合的な学習の時間を軸として、地域人材を活用しながら、ふるさと穂北を見つめ、よさを発信していくような活動を行うことで、ふるさとを愛する児童の育成を図る。	2.9	3.4	○主体的な力を付けさせようとする工夫が見られ、ICTの活用はよくされている感じがしている。 ○落ち着いた授業を受けている印象を受けた。 ○ICTを活用した授業は、低学年であっても操作もスムーズに行っていて非常に驚いた。今後は想像する力、考える力が伸びていくとよいと思う。 ○ICTを積極的に取り入れていることが分かった。今後は効果的な活用について研鑽してほしい。 ○1時間の大きな時間配分を考え、どの時間帯で、何を児童に考えさせるかを意識して取り組む必要がある。 ○「家読（うちどく）」を毎週されているが、感想は上手になってきている。ただ、借りた本を最後までしっかり読んでいるかは疑わしい。記録用紙の絵は、挿絵や表紙を写しているので改善の余地があると思う。 ○家庭での自主的な学習は身に付いているようであるが、読書については三者の評価に隔たりがあり、児童自身の評価もそこまで高くない。「読むこと」を楽しめる児童の育成・指導をお願いしたい。 ○穂北地区、西都、宮崎県の偉人の文化を学んでいると思う。 ○さいと学、キャリア教育とも、児童の夢や将来に大きな影響を与えるものなので、できるだけ本物を見て、聞いて、触る体験を大いにさせてほしい。	
		2 互いに考えを高めるような学びを意識したICTの効果的な活用をするともに、考えをアウトプットする場を設ける。		2.8	3.4		
		3 授業において習熟の時間を確保する。		2.9	3.2		
		4 授業中に、「聞く」・「書く」・「話す」・「調べる」活動についてはじめをつけるように指導し、学び方を身に付けさせる。		3.1	3.0		
協力し合い、人を思いやる子ども	① 道徳教育・人権教育の充実 ② 心を育む日常指導の充実 ③ 個に応じたきめ細かな支援の充実	7 道徳科において、児童が自分ごととして考え、話し合うことができるように工夫する。	○道徳科の授業では、「考え、議論する」授業となるように展開を工夫し、道徳的諸価値についての理解を深めることができるようにする。 ○友達を思いやる「ふわふわことば」の実践を継続し、ほめてのばす指導を行う。 ○気持ちのよい挨拶や返事は学級経営の軸として、日常指導を継続して行う。また、道徳科や学級活動において、挨拶することの大切さなどについて考えさせ、地域の方々にも気持ちのよい挨拶ができるようにする。 ○自分の気持ちを言葉や態度で表現できるように指導していく。 ○子どもを対象としたアンケート「あのねカード」を毎月行うことで、子どもたちの心の状態を把握し、気になる児童については教育相談を通じて子どもの話を聞く。 ○児童一人一人の特性を把握し、特別支援教育の視点をもって、全職員で適切な指導・支援を丁寧に行っていく。	3.0	3.0	○周りの人たちとのコミュニケーションについては身に付いているようだ。豊かな人間性の育成に今後も尽力いただきたい。 ○朝の立番で、年度当初は1・2年生の挨拶の声が小さかったが、だんだんよくなってきた。コロナ禍前とはいかないが、大きな声で挨拶できると気持ちがよいと思う。 ○気持ちのよい挨拶ができている。元気な児童が多いような気がする。 ○朝の挨拶は定着しているが、その日初めて会った人に対して「こんにちは」「さようなら」がなかなか言えていない。時と場に応じた挨拶ができるようになるようにしたい。 ○毎月の調査と個別の面談等で実態を把握していると思うが、特定の児童への乱暴な言葉かけが気になる。 ○「あのねカード」を活用し、面談等をされていると聞いた。引き続き指導して頂き、いじめのない学校にして頂きたい。 ○人間的に間違っただけをしたとき、先生方が指導してくださっていることを子どもを通じて聞く。また、校長先生も指導してくださっているということで、職員全体で関わってくださっていることが有難い。 ○個別の支援に関して、先生と生徒の信頼関係がしっかり構築されているように感じた。 ○個別に支援を要する児童が増えているので、気付いたときに気軽に情報交換できる体制を整えてほしい。	
		8 友達や周りの人にやさしい言葉をかけたり、手伝ったりする思いやりのある児童の育成を目指す。		3.4	3.0		
		9 気持ちのよい挨拶や返事ができるようにする。		3.4	2.8		
		10 「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えるように指導する。		3.5	3.2		
ねばり強く、たくましい子ども	① 運動量を確保した体育の授業と日常運動の推進 ② 基本的生活習慣の定着（早寝、早起き、朝ご飯、メディアコントロール） ③ 健康の維持増進と意識の向上を図る取組の推進	13 向上させたい運動能力を意識し、運動量を確保し、学年に応じた体育の授業と指導法の工夫を行い、児童の体力の向上を図る。	○スクールスポーツプランをもとに、体育の授業を充実させるとともに、昼休み時間の外遊びの推進など学校教育活動全体での取組を通して、体力の向上を図る。 ○児童の望ましい生活リズムの形成については、保護者と協力して行う。保健だより、学校保健委員会、学級通信等を活用し、保護者への啓発を図る。 ○むし歯の治療率を上げるために、保健だよりや学級通信等での啓発、学級懇談や学校保健委員会等を活用して、保護者への啓発を図っていく。	2.8	2.8	○生活リズムが整っており、学校生活ではきちんと生活ができているようだ。メディアコントロールの評価差は、保護者の「言わないとやめない」、児童の「言われたら直ぐにやめた。」という意識の違いだろうか。自主的に抑制できることを切望する。 ○メディアコントロールに対しては、家庭と連絡を取り合いながら将来の姿をイメージして対処してほしい。 ○生活リズムの確立、メディアコントロールは、これから先の大きな課題であると思う。学校と家庭が連携してやっていくことが重要であると感じる。 ○保護者の連絡文書や学級通信等を見ているという部分で、昨年度より評価が下がっている状況なので、学級懇談、参観日等を利用した保護者とのより深いコミュニケーションをとれたらよいと思う。 ○むし歯だけでなく、体全体の病気に関係してくる口腔の病気の怖さを啓発して治療率アップへつなげてほしい。	
		14 保健だより、学校保健委員会を活用し、保護者への情報発信を積極的に行い、望ましい生活リズム（早寝・早起き、朝ご飯、メディアコントロール）を定着させる。		3.5	3.2		
		15 保護者に啓発を行い、むし歯の治療率を向上させる。		3.4	3.0		